

市立学校の耐震化状況等について

令和5年4月1日
富山市教育委員会
学校施設課

学校は、児童生徒の学習及び生活の場であり、豊かな人間性を育むための教育環境として重要な意義を持つとともに、災害時には地域住民の避難所としての役割をも果たすことから、その安全性の確保を図ることは大切なことであると考えております。

このため、富山市では、市立学校の耐震化工事を計画的・積極的に実施しておりますが、施設の現状等について市民の皆様のご理解をいただくため、市立学校の耐震化状況等を公表いたします。

1 市立学校の耐震化状況について

(令和5年4月1日現在)

		全棟数 (非木造で2階建以上または200㎡超木造で500㎡超) (A)	新耐震及び耐震補強済棟数 (B)	耐震化の必要な Is 値 0.7 未満の棟数				耐震化率 (B÷A)
				Is 値				
				0.3 未満	0.3 以上 0.6 未満	0.6 以上 0.7 未満		
小学校	校舎	222	222	0	0	0	0	100.0%
	体育館	76	76	0	0	0	0	100.0%
中学校	校舎	96	96	0	0	0	0	100.0%
	体育館	45	45	0	0	0	0	100.0%
小計		439	439	0	0	0	0	100.0%
幼稚園		3	3	0	0	0	0	100.0%
計		442	442	0	0	0	0	100.0%

※工事中などにより、未使用になっている棟については、棟数の計上から除く。

2 市立小中学校の耐震化の方針について

- (1) 原則、耐震化率100%を達成するまで、耐震補強工事のみを最優先とします。
- (2) 耐震補強工事に当たっては、筋交いを入れる等の工法を取ります。
- (3) 耐震化が必要な棟に対する整備方針は、別紙「棟別耐震状況一覧」のとおりです。

・耐震化に関する用語の説明

Is 値 (構造耐震指標)	建物の耐震性能を表す指標の一つ。0.6 以上は大規模地震時に倒壊または崩壊する危険性が低い、0.3 以上 0.6 未満は危険性がある、0.3 未満は危険性が高い、と区分されている。
新耐震	新耐震基準（昭和 56 年 6 月以降の構造基準）で設計され、一定の耐震性能を持つ建物。
耐震補強	旧耐震基準（昭和 56 年 5 月以前の構造基準）以前で設計され、耐震性能が不十分な建物の耐震性能を一定基準以上に向上させること。